

# 営農情報(令和5年4月)

作成・監修 勝浦町農業振興推進班

## ■かんきつ類

### ◇春草の管理

春草の生育は気温の上昇とともに旺盛になり、草の根はかんきつ樹よりも浅いため、施用した春肥の多くを草に吸収され、生育にも影響するため早めに除草することが大切です。

### ◇花肥の施用

着花量が多い園地では、4月下旬に窒素成分で5kg/10a程度施用する。

## ■うめ

### ◇施肥

4月下旬～5月上旬に施用する。(例:ニュー梅配合60kg/10a)

### ◇ヤニふき果軽減対策

毎年発生園では、ソーゲン600倍またはマルポロン0.05%(水10Lに5g)を4月中旬から10日間隔で3回散布する。

## ■キウイフルーツ

### ◇芽かぎ

不要な新梢による養分ロスを防ぐため芽かぎを行う。新梢が2～3cmになったころ直上芽、弱小芽、蕾の無い芽、不定芽を中心に行き、15芽/m<sup>2</sup>程度とする。

強風害を受けやすい園地では、2割程度多めに残し、5月下旬までに結果枝を12本/m<sup>2</sup>程度に調整する。

## 【4月の病虫害防除】

### かんきつ類

時期	対象病虫害	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
発芽直後	そうか病	デラン(フ)または ストロビー(ド)	1000倍	30日	3回以内
			2000倍	14日	〃
下旬	かいよう病	ICボルドー66D または ドイツボルドーA	80倍 1000倍	— —	— —

※ ハダニ防除として、そうか病防除時にハーベストオイル100倍を混用散布できる。

※ かいよう病は主にすだち対象。薬害防止のため、ICボルドー66Dにはアビオン-E1000倍をドイツボルドーAには、クレフノン200倍を必ず加用する。

### かき

展葉初期	ケムシ類 アザミウマ カイガラムシ類	オリオン(水)40	1000倍	21日	1回
	カイガラムシ類 幼虫	アプロード(水)	1000倍	開花期まで	2回以内

※ カイガラムシ類幼虫は、コナカイガラムシ対策とする。

※ アプロード(水)には、アビオン-E 1000倍を加用する。

### うめ

上中旬	黒星病	オーソサイド(水)80	800倍	21日	3回以内
中下旬		サルファーゾル	500倍	—	—
発生期	アブラムシ類	モスピラン(顆水)	4000倍	前日	3回以内

### キウイフルーツ

上旬～	花腐細菌病	アグリマイシン-100	1000倍	落花期まで	3回以内
-----	-------	-------------	-------	-------	------

## ■水 稲

### ◇本田の準備

- ・田植えの1か月～半月前に土づくり肥料を施用し、荒起を行う。
  - ※ 土づくり肥料については、次の①～④までのいずれかを施用する(10aあたり)
  - ①ケイカル 200kg + BMようりんまたはリンスターを60kg
  - ②田んぼの力 45kg
  - ③阿波のとれ次郎 60kg
  - ④福袋 40kg

## ■夏野菜の定植

### ◇トマト、ナス、キュウリ等の注意点

- ・植付けの2週間前までに、苦土石灰を、1週間くらい前に元肥を施用してよく耕うんする。
- ・十分暖かくなって、晩霜の心配がなくなってから植付ける。4月下旬～5月上旬が目安。
- ・畦にマルチをかけると、地温上昇、雑草対策、乾燥対策等のメリットがある。
- ・定植の際には、根まわし水をたっぷりとする。活着後は、控えめにして根張りをよくする。

## ■オクラ

### ◇トンネル被覆する場合

- ・播種1週間前までに うね立て、マルチ被覆を済ませ地温を上げておく。
- ・播種後、発芽するまでは温度の確保のため密閉とし、本葉1.5枚頃からトンネルの肩に穴を開け換気する。その後、トンネル内の温度が、日中30℃を超えないように換気口を増やしていく。また、最低夜温が15℃以上になる頃(5月上旬)には、ビニールを撤去する。

### ◇露地で直播する場合

- ・露地栽培では、4月20日以降の播種を基本とする。無理な早まきはしないこと。

## 【視察報告】

3月6日に徳島県カンキツ人材育成協議会の視察研修に参加し、JAえひめ中央(松山市)の新規就農希望者に対する支援の取組を伺いました。

JAえひめ中央では、新規就農研修センターを設置(H26～、2年コース、在籍者23名)し、果樹園地314a(ハウス含む)と野菜園地60aを研修生が管理しています。JAの職員はOBも含め営農指導員が果樹と野菜それぞれ2名体制で指導しており、「作業を人に説明して教えることが出来る人」を目標に、自分で考えられる人材の育成を目指しています。

研修生の補助については、農業機械等の各種免許はJAが半額補助、家賃補助もJAが行なっています。就農希望するすべての研修生に園地を斡旋できていますが、耕作放棄地を整備して引き渡す場合もあるようです(整備費は研修生負担)。また、斡旋園地をJAが一旦契約して管理し、研修終了後契約をまきなおすこともしています。

〈所感〉JAえひめ中央は、将来の組合員確保に相当危機感をもっており、赤字覚悟で取組を行っているようです。勝浦町に置き換えてみると、研修施設としては県のかんきつアカデミーがあることから、遜色ないといえますが、研修生への農地斡旋等の支援についての体制が劣っているのは事実であり、今後は関係機関との連携による支援体制の拡充が求められていると思います。

徳島農業支援センター 大西

## 【いきいきファーマーズで営農講座を受講してみませんか】

勝浦町いきいきファーマーズでは、毎月第3木曜日の午前中、農村環境改善センターで営農講座を開催しています。みかんの管理を主に、最新の情報など営農に役立つ講義をしています。10月には視察旅行も予定しています。

入会を希望される方は、役場農業振興課にて受付しておりますのでよろしくお願いいたします。また、視察旅行は会員限定ですが、毎月の営農講座については、会員外でも参加可能です。営農講座の講義予定については、この営農情報や広報等にて広く案内する予定ですので、ご興味がありましたらご参加ください。

＜お問い合わせ先＞

勝浦町農業振興推進班

勝浦町農業振興課42-1505 JA営農振興課088-538-7180 徳島農業支援センター088-626-8768